

届けよう!

改憲ノーの国民の声

右傾化に懸念表明する海外メディア

米紙ニューヨーク・タイムズ(電子版)は、22日付の社説で、安倍政権が安定的多数を得た参院選の結果について、「今回の選挙戦は経済政策をめぐるものだった」としたうえで、「安倍首相は自身の右翼的外交見解が承認されたものと取るべきではない」と、くぎを刺しました。また、韓国・中央日報(7/23付)は社説で、改憲に対する日本の世論が割れている事実注目し、「白紙委任をもらったと考えたら傲慢な錯覚だ」と指摘するなど、海外メディアは日本の右傾化に懸念を表明しています。

戦争はイヤ 平和が一番



国民過半数は改憲反対

参議院選挙の結果、自民党・公明党の与党が非改選議員を含め過半数を超える議席を獲得しました。しかし、改憲を掲げる政党(自民・維新の会・みんなの党)は、改憲手続きに必要な2/3の議席獲得はできず、一方で、憲法改悪反対を掲げた日本共産

党は大きく議席をのばしました。安倍首相は改憲に向けて、最低投票率が決まっていないなど欠陥だらけの「国民投票法」の整備や、集団的自衛権を認める国家安全保障基本法制定など、戦争する国づくりをすすめるようとしています。

しかし、「9条を変え国防軍を持つことに反対」62%('朝日' 5/2付)、「96条改憲に反対」55%('東京' 6/4付)などに示されるように、国民の過半数は改憲を望んでいません。今こそ、「戦争はいや」「平和が一番」「改憲ノー」のみなさんの声を国会に届けましょう。

憲法をいかして 核兵器廃絶、原発ゼロの実現を

原水爆禁止世界大会が今年も広島・長崎で開催されます。1945年8月の広島・長崎への原爆投下、1954年ピキニ環礁での核実験による第5福竜丸の被ばく、そして2年前の福島第1原発事故。日本は3たび「核」による被害を受け、いまなお被害者は苦しんでいます。

「平和のうちに生きたい」は、国民の願いです。憲法改悪反対の世論を広げるとともに、核兵器廃絶、原発ゼロの声を上げていきましょう。

京都自治労連・京教組

2013. 8

憲法を守りいかそう